



宝城中学校だより

令和6(2024)年8月28日

第10号

校長 小田 哲也

学校教育目標：「集団の力を活かして、よりよい社会の創り手として「自走」できる生徒の育成」

1. 2学期がはじまりました。

まずは、長い夏休みの期間中に、大きな事故や怪我などなく、宝城中学校の生徒のみなさんが無事に2学期を迎えられたことを嬉しく思っています。

さて、みなさんにとってこの1ヶ月間、どのような挑戦や発見があったでしょうか。

1学期の終業式で生徒のみなさんには、私の好きな言葉を伝えました。「自分が変われば、世界も変わる」という言葉です。この夏休みを使って「自分を変える」挑戦を1つでも意識して取り組んでみてはいかがでしょうか。例えば、「おごおり夢花火の次の日のボランティアに参加してみた」とか、「いつも夏休みの最後まで残していた夏休みの宿題を夏休み前半に終わらせた」とか、いつもの自分とは違うやっただことのない挑戦は、きっと自分の心の中に、何らかの感情を生み出したことでしょう。「やってみたら面白い」「なんだかワクワクしたなあ」、その感覚は次の新しいことに挑戦する気持ちにつながります。

そして「自分を変える」挑戦は、夏休みだけではありません。これから始まる2学期の学校生活のあらゆる場面にあるはずで、2学期は「挑戦」することで、新しい自分と出会い、自分の今後の人生を豊かにしていく素晴らしい時間にして欲しいと考えています。

2. パリオリンピックを見ていて思ったこと。

今年の夏、パリオリンピックのテレビ中継があり、つい気に止めて応援していました。メダルに届いた選手やメダルには届かなかった選手、結果は様々でしたが、選手の真剣な表情や競技する姿、結果を出して歓喜に沸く姿や、結果を出せずに悔しがる姿、さらに大会本番までの努力や苦労の過程を想像して、心が揺さぶられました。そして、試合後、選手のインタビューでの言葉の中に必ずといって



良いほど、「感謝」が含まれていました。私は、選手のみなさんの努力や苦労を支えてきた家族、共に競い合ってきたライバル、選手を支えるスタッフ、応援してくれる人々など周りの人たちへの「感謝」を伝える姿にさらに感動を覚えるのでした。そして色々なことを考えました。例えば、「人は一人では何事も為し得ないなあ」とか「謙虚な気持ちが人を成長させるのだらうなあ」とか「感謝の気持ちがないと人は幸せにはなれないなあ」などなど、今の自分をさらに進化させるためにも大切なことだなあと考えたところでした。

みなさんは、どんな気持ちでオリンピックを観ていましたか？

3. 中体連の新人大会が始まっています。

8月22日(木)に筑後地区中体連新人水泳競技大会が筑後広域運動公園プールで行われ、本校から5名の選手が出場しました。大変暑い中でしたが、選手のみなさんは良い表情で競技に取り組んでいました。 さん(2年)、 さん(2年)、

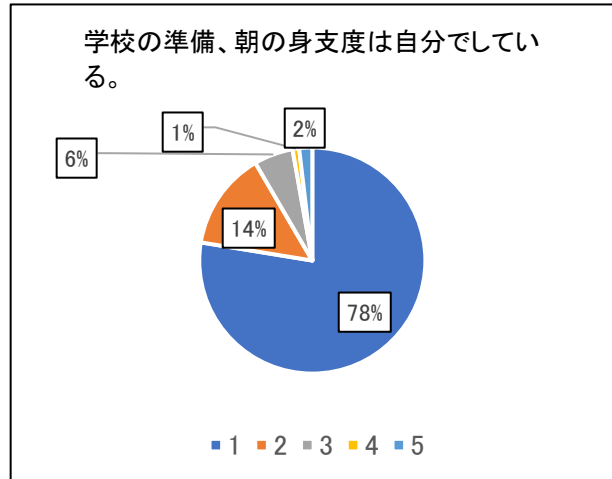
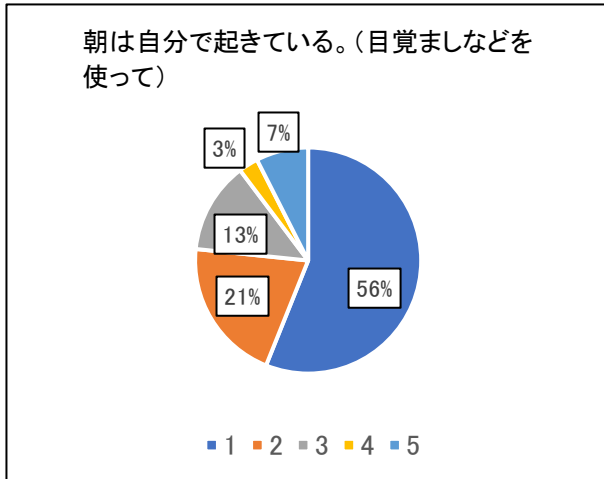
 さん(1年)の3名が8月31日(土)に行われる県大会出場を決めています。おめでとうございます。生徒のみなさんも応援よろしくお願ひします。

4. 「宝城中学校<自立・自律・社会性シート>」の結果について

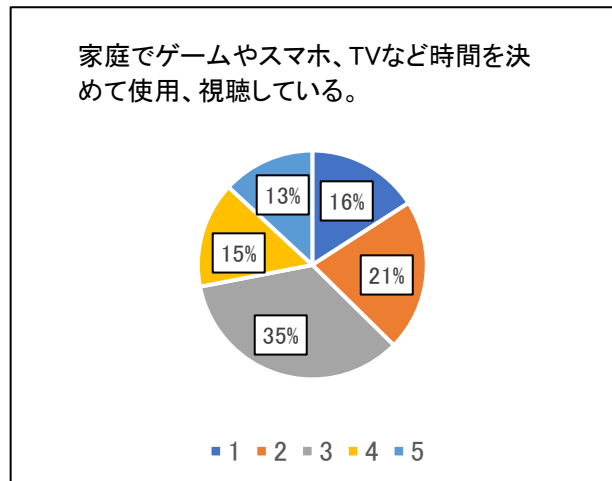
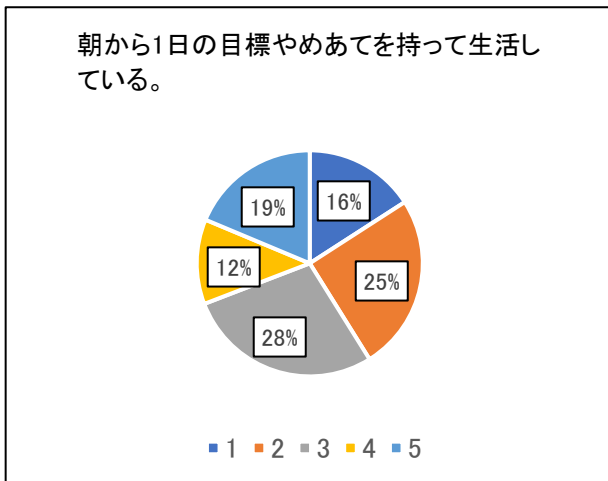
1学期の最後の学校日より紹介していた一部の結果をお知らせします。

※結果の見方（全校生徒の合計から割合を出しています。）

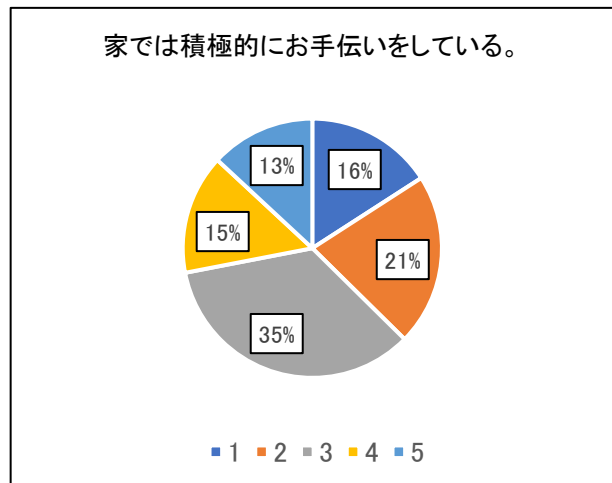
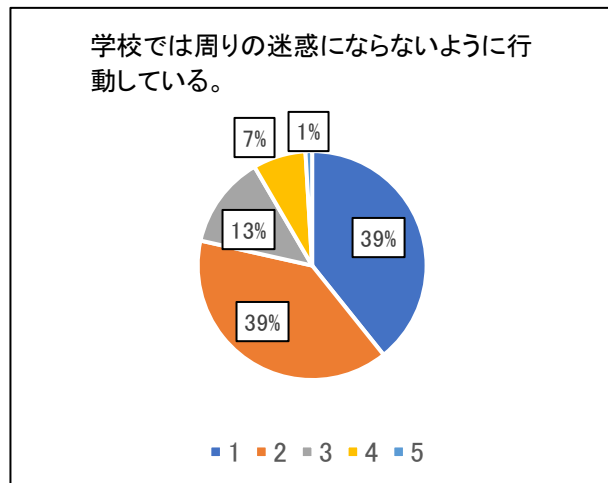
- 1→習慣化して、できている。 2→意識していて、だいたいできている。
 3→意識して いて、時々できている。
 4→意識しているが、できていない。 5→意識していない。（親、家族を頼っている）



○朝起きることや、身支度は「習慣化している」人が多いという結果になりました。



○個人で日々の目標を持っていたいですね。 ○自分をコントロールしましょう。



○気をつけていても迷惑をかけることはあります。だから気をつけていたいですね。 ○家族の一員として家で自分の「役割」があることは大切です。